

シンポジウム

あなたの真下を「リニア」が通る

～リニア中央新幹線は必要なの？～

現在、東京—名古屋—大阪を結ぶ、リニア新幹線の計画が進められ、神奈川県では横浜市、川崎市、相模原市、東京都では町田市、稲城市などがルートに入り、建設着工が迫っています。立坑で町の環境破壊、原発数基分とも言われる電力消費、電磁波の健康被害、9兆円という巨額の工事費でJR東海の財政は？また超高速の技術にも不安があります。そもそもこのような大規模事業は必要なのでしょうか？

「鉄道の未来学」の著者で、新幹線などの事情に詳しい梅原淳氏のお話をうかがいます。

日時：4月21日（土）午後6時～8時30分

資料代 500円

第一部 講演：梅原淳氏 「リニア新幹線に未来はあるか？」



プロフィール

1965年生まれ。大学卒業後、三井銀行(現在の三井住友銀行)に入社。その後、雑誌編集の道に転じ、交友社月刊「鉄道ファン」編集部などを経て2000(平成12)年からフリーランスとなる。現在は鉄道ジャーナリストとして書籍の執筆や雑誌への寄稿を中心に活動中。新聞やテレビ、ラジオでのコメントなども行う。千葉県富津市在住。

著作『鉄道の未来学』(角川書店、2011年9月)、『毎日乗っている地下鉄の謎』(平凡社、2010年10月)『新幹線の科学』(ソフトバンククリエイティブ、2010年7月)、ほか多数

第二部講演：川村晃生氏 「リニア・スピードの原罪」

慶応大学文学部教授 環境人文学、2009年3月結成されたリニア・市民ネット代表。全国自然保護連合の代表も務めている。文学と自然環境、及び環境問題や命の問題に関心をもって取り組んでいる。著書「壊れゆく景観」

第三部：パネルディスカッション

梅原淳(鉄道ジャーナリスト)、
川村晃生(慶応大学教授・全国自然保護連合代表)、
懸樋哲夫(リニア市民ネット事務局／ガウスネット代表)、
小林光昭(JR東海労働組合書記長)、
猪股美恵(川崎市議)

会場：川崎市総合自治会館ホール

JR南武線、東急東横線・目黒線武蔵小杉駅 徒歩7分



主催：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会／リニア・市民ネット

連絡先 042-565-7478 (かけひ) 090-6012-1907 (伊藤)

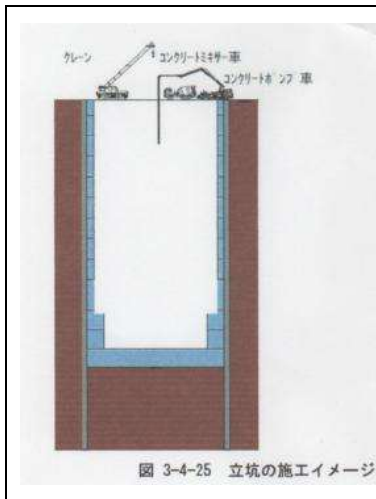
<リニア中央新幹線>が足元を通る

品川～町田～相模原駅間をほぼ大深度地下トンネルで通過（40m以深）

～多摩区部の川崎市多摩区・宮前区・高津区・麻生区横浜市青葉区、東京都町田中・稲城市を通る～



野球場級、直径 30m の巨大な立坑と換気施設が 5～10 km おきに設置



大深度地下トンネルのために、相当規模の立坑及び施工ヤード（数千～一万m程度）が必要。立坑は、約5～10km間隔で設置される。

<リニア中央新幹線計画とは>

- ◆事業者：JR 東海
- ◆路線概要：延長 286 km
(山梨リニア実験線 全体 42.8 km)
- ◆最高設計速度：505 km
- ◆総事業費：9 兆 300 億円
- ◆計画予定
2014 年度：工事計画認可・着工
2027 年：東京～名古屋間 開業
2045 年：大阪まで全線開業

- ◆**私たちの暮らしへの影響** 大規模工事やリニア走行時の騒音の影響は？
- ◆**自然環境への影響** 多摩丘陵の自然は大丈夫？ 水枯れは？ 膨大な残土処理はどうする？
- ◆**JR東海の採算性** 借金 3 兆と長期債務 5 兆の計画。本当に新幹線とリニアを併営できる？
- ◆**電磁波の不安** 超電導リニアの電磁場は高圧線等の 1 万倍。乗客・住民の被曝は大丈夫？
- ◆**エネルギー浪費を考える** 新幹線の 3 倍の電力。専門家によるとピーク電力は原発数基分とも。
- ◆**技術・安全性** トンネル 8 割/大深度地下を運転手不在で時速 500 km 走行。立坑が避難路？

<リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会> (2011 年 11 月発足)

わたしたちは、川崎、相模原、横浜、町田、稲城などのリニア計画の沿線住民の会です。

「リニア新幹線の計画は JR 東海や国交省の説明はまったく不十分であり、多々ある疑問点に納得いくように説明を求めています。計画の安全性について確認できるまでは JR 東海の建設はストップすることを求めて活動します。また問題点を広く知ってもらうこと、さらに行政への働きかけもしていきます。」

リニア中央新幹線の計画や地域への影響を一緒に考え行動しましょう！（連絡先は表面）